

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2024年5月10日(10.05.2024)



(10) 国際公開番号

WO 2024/095947 A1

(51) 国際特許分類:

A61Q 19/00 (2006.01) A61K 8/33 (2006.01)
A61Q 5/00 (2006.01) A61K 8/37 (2006.01)
A61K 8/06 (2006.01) A61K 8/92 (2006.01)
A61K 8/31 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2023/039037

(22) 国際出願日: 2023年10月30日(30.10.2023)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:

特願 2022-175689 2022年11月1日(01.11.2022) JP

(71) 出願人: 株式会社 マンダム (MANDOM CORPORATION) [JP/JP]; 〒5408530 大阪府大阪市中央区十二軒町5番12号 Osaka (JP).

(72) 発明者: 藤田 範子 (FUJITA, Noriko); 〒5408530 大阪府大阪市中央区十二軒町5番12号 株式会社マンダム内 Osaka (JP). 阿部 楓 (ABE, Kaede); 〒5408530 大阪府大阪市中央区十二軒町5番12号 株式会社マンダム内 Osaka (JP).

(74) 代理人: 弁理士 法人大阪フロント特許事務所 (OSAKA FRONT); 〒5400028 大阪府大阪市中央区常盤町1丁目3番8号 中央大通F Nビル Osaka (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA,

BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CV, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IQ, IR, IS, IT, JM, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MU, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, CV, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SC, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, ME, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告 (条約第21条(3))

(54) Title: WATER-IN-OIL EMULSION COSMETIC COMPOSITION

(54) 発明の名称: 油中水型乳化化粧料組成物

(57) Abstract: Provided is a water-in-oil emulsion cosmetic composition that, compared to oil-based cosmetic compositions having the same properties, can realize better spread. The water-in-oil emulsion cosmetic composition according to the present invention comprises: an oily component selected from the group consisting of animal/vegetable oils and hydrocarbon oils, having a melting point of 65-100 ° C, and being solid at 25 ° C (component A); an oily component selected from the group consisting of vegetable oils and fatty acid triglycerides, and being liquid at 25°C (component B); a non-ionic surfactant having a linear saturated alkyl chain with at least 13 carbons and having an HLB value of 2.8-8.0 (component C); and water (component D), where the content of component D is 15.0-50.0 mass%.

(57) 要約: 同じ性状を有する油性化粧料組成物と比べて、のびを良好にすることができる油中水型乳化化粧料組成物を提供する。本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、動植物油及び炭化水素油からなる群より選ばれる融点が65℃以上、100℃以下である25℃で固形の油性成分(成分A)と、植物油及び脂肪酸トリグリセリドからなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分(成分B)と、炭素数13以上の直鎖飽和アルキル鎖を有しかつHLB値が2.8以上、8.0以下であるノニオン界面活性剤(成分C)と、水(成分D)とを含み、前記成分Dの含有量が、15.0質量%以上、50.0質量%以下である。

WO 2024/095947 A1

明 細 書

発明の名称：油中水型乳化化粧料組成物

技術分野

[0001] 本発明は、油中水型乳化化粧料組成物に関する。

背景技術

[0002] 油性化粧料組成物として、ヘアオイル、ヘアスティック、ヘアクレイ及びヘアバーム等が知られている。

[0003] 例えば、下記の特許文献1には、(A) 12-ヒドロキシステアリン酸と、(B) 炭化水素油の1種又は2種以上と、(C) シリコーン誘導体の1種又は2種以上とを含む油性毛髪化粧料が開示されている。

[0004] また、下記の特許文献2には、液状油(A)と、液状油(A)を固化する固化剤(B)とを含み、液状油(A)の含有量が70質量%～99質量%であり、固化剤(B)の含有量が1質量%～30質量%である毛髪用バームが開示されている。

先行技術文献

特許文献

[0005] 特許文献1：特開2000-143454号公報

特許文献2：特開2020-050613号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0006] ヘアバームのような適度に硬い性状を有する油性化粧料組成物や、ヘアクレイのような硬い性状を有する油性化粧料組成物が知られている。これらの油性化粧料組成物には、油性化粧料組成物に硬さを付与するために、25℃で固形の油性成分が配合されている。

[0007] しかしながら、25℃で固形の油性成分を含む従来の油性化粧料組成物では、のび特性を十分に高めることは困難である。

[0008] 本発明の目的は、同じ性状を有する油性化粧料組成物と比べて、のびを良

好にすることができる油中水型乳化化粧料組成物を提供することである。

課題を解決するための手段

[0009] 本発明者らは、25℃で固形の油性成分を含みながらも、同じ性状を有する油性化粧料組成物と比べて、のびを良好にすることができる化粧料組成物を鋭意検討した。その結果、本発明者らは、下記の化粧料組成物であれば、上記の課題を解決できることを見出した。

[0010] 本発明は、下記成分（A）と、下記成分（B）と、下記成分（C）と、下記成分（D）とを含み、前記成分（D）の含有量が、15.0質量%以上、50.0質量%以下である、油中水型乳化化粧料組成物を提供する。

[0011] 成分（A）：動植物油及び炭化水素油からなる群より選ばれる融点が65℃以上、100℃以下である25℃で固形の油性成分

成分（B）：植物油及び脂肪酸トリグリセリドからなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分

成分（C）：炭素数13以上の直鎖飽和アルキル鎖を有しかつHLB値が2.8以上、8.0以下であるノニオン界面活性剤

成分（D）：水

[0012] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、下記成分（E）を含むことが好ましい。

[0013] 成分（E）：ポリリシノレイン酸ポリグリセリル

[0014] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、下記成分（F）を含むことが好ましい。

[0015] 成分（F）：HLB値が8.0を超え、12.0以下であるリン酸系界面活性剤

[0016] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物では、前記成分（B）、前記成分（B）以外のエステル油、炭化水素油、及びシリコン油からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分の含有量が、15.0質量%以上、70.0質量%以下であることが好ましい。

[0017] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、下記成分（G）を含み、前記成分

(B)、前記成分(B)以外のエステル油、炭化水素油、及びシリコーン油からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分の含有量が、5.0質量%以上、25.0質量%以下であることが好ましい。

[0018] 成分(G):粉体

[0019] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、毛髪化粧料組成物であることが好ましい。

発明の効果

[0020] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、特定の成分(A)と特定の成分(B)と特定の成分(C)と特定の成分(D)とを含み、成分(D)の含有量が、15.0質量%以上、50.0質量%以下である。本発明の油中水型乳化化粧料組成物では、上記の構成が備えられているので、同じ性状を有する油性化粧料組成物と比べて、のびを良好にすることができる。

[0021] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物が毛髪化粧料組成物である場合には、成分(B)により、毛髪を良好にまとめることができる。本発明の油中水型乳化化粧料組成物が皮膚化粧料組成物である場合には、成分(B)により、皮膚に保湿感を良好に付与することができる。

発明を実施するための形態

[0022] 以下、本発明を詳細に説明する。

[0023] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、動植物油及び炭化水素油からなる群より選ばれる融点が65℃以上、100℃以下である25℃で固形の油性成分と、植物油及び脂肪酸トリグリセリドからなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分と、炭素数13以上の直鎖飽和アルキル鎖を有しかつHLB値が2.8以上、8.0以下であるノニオン界面活性剤と、水とを含む。

[0024] 本明細書においては、上記「動植物油及び炭化水素油からなる群より選ばれる融点が65℃以上、100℃以下である25℃で固形の油性成分」を「成分(A)」と称する場合がある。

[0025] 本明細書においては、上記「植物油及び脂肪酸トリグリセリドからなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分」を「成分(B)」と称する場合があ

る。

[0026] 本明細書においては、上記「炭素数 13 以上の直鎖飽和アルキル鎖を有しかつ HLB 値が 2.8 以上、8.0 以下であるノニオン界面活性剤」を「成分 (C)」と称する場合がある。

[0027] 本明細書においては、上記「水」を「成分 (D)」と称する場合がある。

[0028] したがって、本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、成分 (A) と、成分 (B) と、成分 (C) と、成分 (D) とを含む。

[0029] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物では、成分 (D) の含有量が、15.0 質量%以上、50.0 質量%以下である。

[0030] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物では、上記の構成が備えられているので、同じ性状を有する油性化粧料組成物と比べて、のびを良好にすることができる。例えば、本発明の油中水型乳化化粧料組成物がヘアバームである場合には、従来のヘアバーム（油性化粧料組成物）と比べて、のびを良好にすることができる。また、本発明の油中水型乳化化粧料組成物がヘアクレイである場合には、従来のヘアクレイ（油性化粧料組成物）と比べて、のびを良好にすることができる。

[0031] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物が、同じ性状を有する油性化粧料組成物と比べて、のびを良好にすることができる理由としては、以下が推定される。

[0032] 一般的な油性化粧料組成物では、25℃で液状の油性成分中にて25℃で固形の油性成分等により特定の構造が形成されることにより、硬さが付与される。しかしながら、油性化粧料組成物では、上記構造のサイズが比較的大きいため、のび特性を十分に高めることはできないと考えられる。これに対して、本発明の油中水型乳化化粧料組成物では、25℃で固形の油性成分（成分 (A)）により形成される構造により硬さが付与されるものの、分散した水相の存在により、上記構造の形成がある程度阻害され、また形成される構造のサイズが比較的小さくなる。このため、本発明の油中水型乳化化粧料組成物では、同じ性状を有する油性化粧料組成物と比べて、のびを良好にす

ることができる。

[0033] なお、上記のメカニズムは推定であり、本発明の油中水型乳化化粧料組成物が同じ性状を有する油性化粧料組成物と比べてのびを良好にすることができる理由は、これに限定されない。

[0034] また、本発明の油中水型乳化化粧料組成物では、べたつきを効果的に抑えることができる。

[0035] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物が毛髪化粧料組成物である場合には、毛髪を良好にまとめることができる。

[0036] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物が皮膚化粧料組成物である場合には、皮膚に保湿感を良好に付与することができる。

[0037] また、本発明の油中水型乳化化粧料組成物では、塗布性を高めることもできる。このため、指で取った油中水型乳化化粧料組成物を掌上で良好にのばすことができ、また、毛髪や皮膚へ塗布したときに油中水型乳化化粧料組成物を毛髪又は皮膚へ良好かつ均一に移行させることができる。

[0038] さらに、本発明の油中水型乳化化粧料組成物では、洗い落ち性を良好にすることができる。

[0039] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、ポリリシノレイン酸ポリグリセリルを含んでいてもよい。

[0040] 本明細書においては、上記「ポリリシノレイン酸ポリグリセリル」を「成分（E）」と称する場合がある。

[0041] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、HLB値が8.0を超え、12.0以下であるリン酸系界面活性剤を含んでいてもよい。

[0042] 本明細書においては、上記「HLB値が8.0を超え、12.0以下であるリン酸系界面活性剤」を「成分（F）」と称する場合がある。

[0043] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、粉体を含んでいてもよい。

[0044] 本明細書においては、上記「粉体」を「成分（G）」と称する場合がある。

[0045] 本発明の油中水型乳化化粧料組成物は、成分（A）～（G）以外の他の成

分を含んでもよい。

[0046] 上記の成分、例えば、成分（A）、成分（B）、成分（C）、成分（E）、成分（F）、成分（G）や他の成分は、それぞれ、1種のみが用いられてもよく、2種以上が用いられてもよい。

[0047] なお、本明細書において、「25℃で固形」とは、25℃で流動性がない性状を意味し、25℃で半固形（ペースト状等）の性状も含む。一方、「25℃で液状」とは、25℃で流動性がある性状を意味する。

[0048] また、本明細書において、各成分の含有量とは、油中水型乳化化粧料組成物に含まれる全ての該成分の含有量の合計を意味する。例えば、成分（A）の含有量とは、油中水型乳化化粧料組成物中の全ての成分（A）の含有量の合計を意味する。

[0049] 以下、本発明の油中水型乳化化粧料組成物に用いられる各成分の詳細を説明する。

[0050] （成分（A））

成分（A）は、動植物油及び炭化水素油からなる群より選ばれる融点が65℃以上、100℃以下である25℃で固形の油性成分（少なくとも1の25℃で固形の油性成分）である。成分（A）は、賦形剤である。また、成分（A）を用いることにより、毛髪のまとまりを良好にすることができる。成分（A）は、1種のみが用いられてもよく、2種以上が併用されてもよい。

[0051] 本明細書においては、成分（A）のうち、上記「動植物油」を「成分（A1）」と称する場合があります、上記「炭化水素油」を「成分（A2）」と称する場合があります。

[0052] したがって、成分（A）は、成分（A1）及び成分（A2）からなる群より選ばれる融点が65℃以上、100℃以下である25℃で固形の油性成分である。成分（A）の融点は、70℃以上であることが好ましい。

[0053] 成分（A1）は、融点が65℃以上、100℃以下である25℃で固形の動植物油である。成分（A1）の融点は、70℃以上であることが好ましい。

- [0054] 成分（A 1）としては、カルナウバロウ、ヒマワリ種子ロウ、キャンデリラロウ、コメヌカロウ、及び水添ヒマシ油等が挙げられる。
- [0055] 成分（A 2）は、融点が65℃以上、100℃以下である25℃で固形の炭化水素油である。成分（A 2）の融点は、70℃以上であることが好ましい。
- [0056] 成分（A 2）としては、マイクロクリスタリンワックス、パラフィンワックス、ポリエチレンワックス、セレシン、オゾケライト、及び合成ワックス（フィッシャー・トロプシュワックス等）等が挙げられる。
- [0057] ベたつきをより一層抑える観点から、成分（A）は、成分（A 2）を含むことが好ましい。整髪された髪型の持続力をより一層高める観点から、成分（A）は、成分（A 1）と成分（A 2）とを含むことがより好ましい。この場合には、賦形性をより一層高めることができ、また、毛髪のまとまりをより一層良好にすることができる。
- [0058] 上記油中水型乳化化粧料組成物100質量%中、成分（A 1）の含有量は、好ましくは0.1質量%以上、より好ましくは0.5質量%以上、更に好ましくは1.0質量%以上、好ましくは15.0質量%以下、より好ましくは10.0質量%以下、更に好ましくは5.0質量%以下である。成分（A 1）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、整髪された髪型の持続力をより一層高めることができる。成分（A 1）の含有量が上記上限以下であると、べたつきを効果的に抑えることができる。
- [0059] 上記油中水型乳化化粧料組成物100質量%中、成分（A 2）の含有量は、好ましくは3.0質量%以上、より好ましくは5.0質量%以上、更に好ましくは7.0質量%以上、好ましくは35.0質量%以下、より好ましくは30.0質量%以下、更に好ましくは25.0質量%以下である。成分（A 2）の含有量が上記下限以上であると、賦形性をより一層高めることができ、また、毛髪のまとまりをより一層良好にすることができる。成分（A 2）の含有量が上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、乳化安定性をより一層高めることができる。

[0060] 上記油中水型乳化化粧料組成物100質量%中、成分(A)の含有量は、好ましくは5.0質量%以上、より好ましくは7.0質量%以上、更に好ましくは10.0質量%以上、好ましくは35.0質量%以下、より好ましくは30.0質量%以下、更に好ましくは25.0質量%以下である。成分(A)の含有量が上記下限以上であると、賦形性をより一層高めることができる、また、毛髪のまとまりをより一層良好にすることができる。成分(A)の含有量が上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、乳化安定性をより一層高めることができる。

[0061] (成分(B))

成分(B)は、植物油及び脂肪酸トリグリセリドからなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分（少なくとも1の25℃で液状の油性成分）である。成分(B)を成分(A)と組み合わせて用いることにより、のびを良好にすることができる。また、成分(B)を用いることにより、毛髪のまとまりを良好にすることができる。さらに、成分(B)を用いることにより、皮膚に保湿感を良好に付与することができる。成分(B)は、1種のみが用いられてもよく、2種以上が併用されてもよい。

[0062] 本明細書においては、成分(B)のうち、上記「植物油」を「成分(B1)」と称する場合があり、上記「脂肪酸トリグリセリド」を「成分(B2)」と称する場合がある。

[0063] したがって、成分(B)は、成分(B1)及び成分(B2)からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分である。

[0064] 成分(B1)は、25℃で液状の植物油である。

[0065] 成分(B1)としては、アボカド油、アルガンオイル、オリーブ油、コメヌカ油、ダイズ油、トウモロコシ油、ヒマシ油、ブドウ種子油、クイナッツ油、ホホバ油、マカデミアナッツ油、クランベアビシニカ種子油、ユーカリ油、ヤシ油、サフラワー油、パーム油、パーム核油、アーモンド油、ローズヒップ油、カメリアオイル、キウイフルーツシード油、ツバキ油、杏仁油、ゴマ油、大豆油、ヘーゼルナッツ油、ハッカ油、カロットオイル、ラベン

ダー油、メドウフォーム油及びヒマワリ油等が挙げられる。

[0066] 成分（Ｂ２）は、２５℃で液状の脂肪酸トリグリセリドである。

[0067] 成分（Ｂ２）としては、トリ２－エチルヘキサン酸グリセリル（トリエチルヘキサノイン）、トリカプリル酸グリセリル、トリカプリン酸グリセリル、トリウンデシル酸グリセリル、トリステアリン酸グリセリル、トリスステアリン酸グリセリル、トリパルミチン酸グリセリル、トリウンデカン酸グリセリル、トリ２－ヘプチルウンデカン酸グリセリル、トリベヘン酸グリセリル、トリミリスチン酸グリセリル、トリラウリン酸グリセリル、トリオレイン酸グリセリル、トリリノール酸グリセリル、トリパルミトレイン酸グリセリル、トリアセチルヒドロキシステアリン酸グリセリル、トリアセチルリシノール酸グリセリル、トリヒドロキシステアリン酸グリセリル、トリ（カプリル酸／カプリン酸）グリセリル、トリ（カプリル酸／カプリン酸／ミリスチン酸／ステアリン酸）グリセリル、トリ（カプリル酸／カプリン酸／イソステアリン酸／アジピン酸）グリセリル、トリ（カプリル酸／カプリン酸／ラウリン酸）グリセリル、トリ（カプリル酸／カプリン酸／リノール酸）グリセリル、トリ（カプリル酸／カプリン酸／ステアリン酸）グリセリル、トリ牛脂脂肪酸グリセリル、トリ（牛脂脂肪酸／ミンク油脂肪酸／タラ肝油脂肪酸）グリセリル、トリ（ミンク油脂肪酸／パルミチン酸）グリセリル、トリヤシ油脂肪酸グリセリル、トリラノリン脂肪酸グリセリル、トリ（リシノレイン酸／カプロン酸／カプリル酸／カプリン酸）グリセリル、トリ脂肪酸（Ｃ１０－１８）グリセリル、トリ脂肪酸（Ｃ１２－１８）グリセリル、水添トリ脂肪酸（Ｃ１２－１８）グリセリル、トリ脂肪酸（Ｃ１２－２０）グリセリル、トリ脂肪酸（Ｃ１８－３６）グリセリル、トリ分岐脂肪酸（Ｃ１０－４０）グリセリル、トリ分岐脂肪酸（Ｃ１２－３１）グリセリル、（水添ロジン／ジイソステアリン酸）グリセリル、トリ（パーム油脂肪酸／パーム核油脂肪酸／オリーブ油脂肪酸／マカデミアナッツ油脂肪酸／アブラナ種子油脂肪酸）グリセリル、トリ（ヒマシ脂肪酸／オリーブ脂肪酸）グリセリル、トリ（ベヘン酸／イソステアリン酸／エイコサン二酸）グリセリル、

及びトリ（ミnk脂肪酸／パルミチン酸）グリセリル等が挙げられる。

[0068] 成分（B）は、成分（B 2）を含むことが好ましく、成分（B 1）と成分（B 2）とを含むことがより好ましい。この場合には、のびをより一層良好にすることができる。また、べたつきをより一層抑えることができる。

[0069] 上記油中水型乳化化粧料組成物 100 質量％中、成分（B 1）の含有量は、好ましくは 0.3 質量％以上、より好ましくは 1.0 質量％以上、好ましくは 20.0 質量％以下、より好ましくは 15.0 質量％以下である。成分（B 1）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のとまりをより一層良好にすることができる。

[0070] 上記油中水型乳化化粧料組成物 100 質量％中、成分（B 2）の含有量は、好ましくは 1.0 質量％以上、より好ましくは 3.0 質量％以上、好ましくは 50.0 質量％以下、より好ましくは 40.0 質量％以下である。成分（B 2）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のとまりをより一層良好にすることができる。

[0071] 上記油中水型乳化化粧料組成物 100 質量％中、成分（B）の含有量は、好ましくは 3.0 質量％以上、より好ましくは 5.0 質量％以上、好ましくは 50.0 質量％以下、より好ましくは 40.0 質量％以下である。成分（B）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のとまりをより一層良好にすることができる。

[0072] （成分（C））

成分（C）は、炭素数 13 以上の直鎖飽和アルキル鎖を有しかつ HLB 値が 2.8 以上、8.0 以下であるノニオン界面活性剤である。成分（C）は、乳化剤である。成分（C）を用いることにより、油中水型乳化化粧料組成物とすることができる。成分（C）は、1 種のみが用いられてもよく、2 種以上が併用されてもよい。

- [0073] 成分（C）は、炭素数 13 以上の直鎖飽和アルキル鎖を有する。上記直鎖飽和アルキル鎖における上記炭素数は、好ましくは 15 以上、より好ましくは 17 以上、好ましくは 23 以下である。上記炭素数が上記下限以上及び上記上限以下であると、乳化特性をより一層高めることができる。
- [0074] 成分（C）は、炭素数 13 以上の分岐飽和アルキル鎖を有さないことが好ましく、炭素数 13 以上の不飽和アルキル鎖を有さないことも好ましい。成分（C）は、炭素数 13 以上の分岐飽和アルキル鎖及び炭素数 13 以上の不飽和アルキル鎖の双方を有さないことがより好ましい。
- [0075] 成分（C）の HLB 値は、2.8 以上、8.0 以下であり、好ましくは 3.0 以上、より好ましくは 3.2 以上、好ましくは 7.0 以下、より好ましくは 6.0 以下である。上記 HLB 値が上記下限以上及び上記上限以下であると、油中水型の乳化特性をより一層高めることができる。
- [0076] 成分（C）としては、グリセリン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ソルビタン脂肪酸エステル、及びポリオキシエチレンアルキルエーテル等が挙げられる。
- [0077] 上記グリセリン脂肪酸エステルとしては、ベヘン酸グリセリル、ステアリン酸グリセリル、パルミチン酸グリセリル、及びミリスチン酸グリセリル等が挙げられる。上記ポリグリセリン脂肪酸エステルとしては、モノステアリン酸ジグリセリル、トリステアリン酸デカグリセリル、ペンタステアリン酸ポリグリセリル-4、ペンタステアリン酸ポリグリセリル-6、ペンタステアリン酸ポリグリセリル-10、デカステアリン酸ポリグリセリル-10、及びヘプタ（ベヘン酸/ステアリン酸）ポリグリセリル-10等が挙げられる。上記ソルビタン脂肪酸エステルとしては、ステアリン酸ソルビタン、及びパルミチン酸ソルビタン等が挙げられる。上記ポリオキシエチレンアルキルエーテルとしては、オキシエチレンの平均付加モル数が 2 以上、5 以下でありかつアルキル基の炭素数が 14 以上、22 以下のポリオキシエチレンアルキルエーテル等が挙げられ、より具体的には、POE（5）ベヘニルエーテル、POE（2）セチルエーテル、及び POE（2）ステアリルエーテル等

が挙げられる。

[0078] 成分（C）は、ステアリン酸ソルビタン、ベヘン酸グリセリル、及びステアリン酸グリセリルからなる群より選ばれるノニオン界面活性剤（少なくとも1のノニオン界面活性剤）を含むことが好ましく、ステアリン酸ソルビタン及びベヘン酸グリセリルからなる群より選ばれるノニオン界面活性剤（少なくとも1のノニオン界面活性剤）を含むことがより好ましい。この場合には、油中水型の乳化特性をより一層高めることができる。

[0079] 本明細書においては、上記「ステアリン酸ソルビタン、ベヘン酸グリセリル、及びステアリン酸グリセリルからなる群より選ばれるノニオン界面活性剤」を「成分（C1）」と称する場合がある。

[0080] したがって、成分（C）は、成分（C1）を含むことが好ましい。上記油中水型乳化化粧料組成物は、成分（C1）を含むことが好ましい。

[0081] 上記油中水型乳化化粧料組成物100質量%中、成分（C1）の含有量は、好ましくは0.5質量%以上、より好ましくは1.0質量%以上、好ましくは10.0質量%以下、より好ましくは7.0質量%以下である。成分（C1）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、油中水型の乳化特性をより一層高めることができる。

[0082] 上記油中水型乳化化粧料組成物100質量%中、成分（C）の含有量は、好ましくは0.5質量%以上、より好ましくは1.0質量%以上、好ましくは10.0質量%以下、より好ましくは7.0質量%以下である。成分（C）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、油中水型の乳化特性をより一層高めることができる。

[0083] （成分（D））

成分（D）は、水である。成分（D）は精製水であることが好ましい。

[0084] 油中水型乳化系を形成させる観点から、上記油中水型乳化化粧料組成物100質量%中、成分（D）の含有量は、15.0質量%以上、50.0質量%以下である。

[0085] 上記油中水型乳化化粧料組成物100質量%中、成分（D）の含有量は、

好ましくは20.0質量%以上、より好ましくは25.0質量%以上、好ましくは45.0質量%以下、より好ましくは40.0質量%以下である。成分(D)の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、乳化安定性をより一層高めることができる。

[0086] (成分(E))

成分(E)は、ポリリシノレイン酸ポリグリセリルである。上記油中水型乳化化粧料組成物は、成分(E)を含むことが好ましい。成分(E)を用いることにより、油中水型乳化化粧料組成物の分散安定性を高めることができる。より具体的には、成分(E)を用いることにより、乳化粒子(水相)の沈降を効果的に抑えることができる。そのため、油中水型乳化化粧料組成物を容器へ充填する工程でのハンドリング性等を良好にすることができる。成分(E)は、1種のみが用いられてもよく、2種以上が併用されてもよい。

[0087] 成分(E)におけるグリセリンの平均付加モル数は、好ましくは2以上、より好ましくは3以上、好ましくは10以下、より好ましくは7以下である。

[0088] 成分(E)としては、ポリリシノレイン酸ポリグリセリルー3、ポリリシノレイン酸ポリグリセリルー5、及びポリリシノレイン酸ポリグリセリルー6等が挙げられる。

[0089] 上記油中水型乳化化粧料組成物100質量%中、成分(E)の含有量は、好ましくは0.1質量%以上、より好ましくは0.5質量%以上、好ましくは10.0質量%以下、より好ましくは5.0質量%以下である。成分(E)の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、油中水型乳化化粧料組成物の分散安定性をより一層高めることができる。

[0090] (成分(F))

成分(F)は、HLB値が8.0を超え、12.0以下であるリン酸系界面活性剤である。上記油中水型乳化化粧料組成物は、成分(F)を含むことが好ましい。成分(F)を用いることにより、乳化安定性をより一層高めることができる。成分(F)は、1種のみが用いられてもよく、2種以上が併

用されてもよい。

[0091] 成分（F）のHLB値は、好ましくは8.1以上、より好ましくは9.0以上、好ましくは11.5以下である。

[0092] 成分（F）としては、ラウリルリン酸ナトリウム、セチルリン酸ナトリウム、及びセチルリン酸ジエタノールアミン等のモノアルキルリン酸エステル塩；ポリオキシエチレンラウリルエーテルリン酸ナトリウム、ポリオキシエチレンセチルエーテルリン酸ナトリウム、ポリオキシエチレンオレイルエーテルリン酸ナトリウム、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテルリン酸ナトリウム、及びポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテルリン酸トリエタノールアミン等のポリオキシエチレンアルキルエーテルリン酸エステル塩等が挙げられる。

[0093] 成分（F）は、アルキルリン酸エステル及び／又はその塩、並びにポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸及び／又はその塩からなる群より選ばれるリン酸系界面活性剤（少なくとも1のリン酸系界面活性剤）を含むことが好ましい。

[0094] 本明細書においては、上記「アルキルリン酸エステル及び／又はその塩、並びにポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸及び／又はその塩からなる群より選ばれるリン酸系界面活性剤」を「成分（F1）」と称する場合があります、上記「アルキルリン酸エステル及び／又はその塩」を「成分（F11）」と称する場合があります、上記「ポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸及び／又はその塩」を「成分（F12）」と称する場合があります。

[0095] したがって、成分（F）は、成分（F1）を含むことが好ましい。成分（F1）は、成分（F11）及び成分（F12）からなる群より選ばれるリン酸系界面活性剤である。上記油中水型乳化化粧料組成物は、成分（F1）を含むことが好ましい。

[0096] 成分（F11）は、アルキルリン酸エステルであってもよく、アルキルリン酸エステル塩であってもよく、アルキルリン酸エステルとアルキルリン酸エステル塩との双方であってもよい。

- [0097] 上記アルキルリン酸エステルは、リン酸が有する3つのヒドロキシ基のうちの1以上における水素原子がアルキル基に置換された化合物である。上記アルキルリン酸エステルは、モノエステル体であってもよく、ジエステル体であってもよく、トリエステル体であってもよく、これらのうちの2以上の混合物であってもよい。
- [0098] 上記アルキルリン酸エステルにおけるエステル部分のアルキル基の炭素数は、好ましくは12以上、より好ましくは14以上、好ましくは36以下、より好ましくは30以下、更に好ましくは22以下である。上記アルキルリン酸エステルにおけるエステル部分のアルキル基は、直鎖状であってもよく、分岐鎖状であってもよいが、直鎖状であることが好ましい。
- [0099] 上記アルキルリン酸エステル塩における塩としては、無機塩、有機アミン塩、及び塩基性アミノ酸塩等が挙げられる。上記無機塩としては、ナトリウム塩及びカリウム塩等のアルカリ金属塩；マグネシウム塩及びカルシウム塩等のアルカリ土類金属塩；アンモニウム塩；アルミニウム塩；亜鉛塩等が挙げられる。上記有機アミン塩としては、モノエタノールアミン塩、ジエタノールアミン塩、及びトリエタノールアミン塩等が挙げられる。上記塩基性アミノ酸塩としては、アルギニン塩、及びリジン塩等が挙げられる。
- [0100] 成分（F11）としては、ラウリルリン酸、ラウリルリン酸ナトリウム、ラウリルリン酸二ナトリウム、ラウリルリン酸ジエタノールアミン、ラウリルリン酸トリエタノールアミン、ラウリルリン酸カリウム、セチルリン酸、セチルリン酸カリウム、セチルリン酸トリエタノールアミン、及びセチルリン酸ジエタノールアミン等が挙げられる。
- [0101] 成分（F11）の市販品としては、商品名「ホステンHLP」（日光ケミカルズ社製）、商品名「Hostaphat CC」（クラリアントジャパン社製）等が挙げられる。
- [0102] 成分（F12）は、ポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸であってもよく、ポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸塩であってもよく、ポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸とポリオキシアルキレンア

ルキルエーテルリン酸塩との双方であってもよい。

[0103] 上記ポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸は、ポリオキシアルキレン残基と1価の飽和脂肪族アルコール残基とから構成されるエーテル（ポリオキシアルキレンアルキルエーテル）のリン酸エステルである。ポリオキシアルキレンアルキルエーテルにおけるポリオキシアルキレン残基を構成するオキシアルキレンとしては、オキシエチレン、オキシプロピレン、及びオキシブチレン等の炭素数2～4のオキシアルキレン等が挙げられる。上記ポリオキシアルキレンは、ポリオキシエチレンであることが好ましい。上記ポリオキシアルキレンは、1種のためのオキシアルキレンを含んでいてもよく、2種以上のオキシアルキレンを含んでいてもよい。

[0104] 上記ポリオキシアルキレンアルキルエーテルを構成する1価の飽和脂肪族アルコール残基は、1価の飽和脂肪族炭化水素基を含む。1価の飽和脂肪族炭化水素基としては、ラウリル基、セチル基、ステアリル基等の炭素数10～36（好ましくは炭素数12～18）の飽和脂肪族炭化水素基等が挙げられる。上記1価の飽和脂肪族炭化水素基は、直鎖状であることが好ましい。

[0105] 上記ポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸は、モノエステル体であってもよく、ジエステル体であってもよく、トリエステル体であってもよく、これらのうちの2以上の混合物であってもよい。

[0106] 上記ポリオキシアルキレンアルキルエーテルリン酸塩における塩としては、無機塩、有機アミン塩、及び塩基性アミノ酸塩等が挙げられる。上記無機塩、上記有機アミン塩及び上記塩基性アミノ酸塩としてはそれぞれ、上述の成分（F11）の欄において例示した塩が挙げられる。

[0107] 成分（F12）としては、トリセテアレスー4リン酸及びトリセテアレスー5リン酸等のポリオキシアルキレンセテアリルエーテルリン酸；ジ（C12-15）パレスー4リン酸、ジ（C12-15）パレスー6リン酸及びジ（C12-15）パレスー8リン酸等のポリオキシアルキレンアルキル（C12-15）エーテルリン酸；並びにこれらの塩等が挙げられる。

[0108] 成分（F）は、トリセテアレスー4リン酸、トリセテアレスー5リン酸、

ジ（C 1 2－1 5）パレスー４リン酸、及びジ（C 1 2－1 5）パレスー６リン酸、並びにこれらの塩からなる群より選ばれるリン酸系界面活性剤（少なくとも１のリン酸系界面活性剤）を含むことが好ましい。成分（F 1）は、トリセテアレスー４リン酸、トリセテアレスー５リン酸、ジ（C 1 2－1 5）パレスー４リン酸、及びジ（C 1 2－1 5）パレスー６リン酸、並びにこれらの塩からなる群より選ばれるリン酸系界面活性剤（少なくとも１のリン酸系界面活性剤）であることが好ましい。

[0109] 上記油中水型乳化化粧料組成物１００質量％中、成分（F 1）の含有量は、好ましくは０．１質量％以上、より好ましくは０．５質量％以上、更に好ましくは０．７質量％以上、好ましくは１０．０質量％以下、より好ましくは５．０質量％以下である。成分（F 1）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、乳化安定性をより一層高めることができる。

[0110] 上記油中水型乳化化粧料組成物１００質量％中、成分（F）の含有量は、好ましくは０．１質量％以上、より好ましくは０．５質量％以上、更に好ましくは０．７質量％以上、好ましくは１０．０質量％以下、より好ましくは５．０質量％以下である。成分（F）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、乳化安定性をより一層高めることができる。

[0111] （成分（G））

成分（G）は、粉体である。上記油中水型乳化化粧料組成物は、成分（G）を含むことが好ましい。成分（G）を用いることにより、艶が抑えられたマットな質感を毛髪に付与したり、油中水型乳化化粧料組成物の使用感を調整したりすることができる。成分（G）は、１種のみが用いられてもよく、２種以上が併用されてもよい。

[0112] 成分（G）としては、粘土鉱物、シリカ（無水ケイ酸）、ケイソウ土（珪藻土）、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、酸化アルミニウム、硫酸バリウム、ベンガラ、黄酸化鉄、黒酸化鉄、酸化クロム、群青、紺青、カーボンブラック、酸化チタン、二酸化チタン、酸化亜鉛、セルロース末、及びデンブ（オクテニルコハク酸トウモロコシデンブエステル金属塩など）等が

挙げられる。

[0113] 上記粘土鉱物は、天然物であってもよく、合成物であってもよい。

[0114] 上記粘土鉱物としては、カオリン族粘土鉱物、アンティゴライト族粘土鉱物、パイロフィライト族粘土鉱物、雲母族粘土鉱物、スメクタイト族粘土鉱物、バーミキュライト族粘土鉱物、緑泥石族粘土鉱物、及び有機変性粘土鉱物等が挙げられる。

[0115] 上記カオリン族粘土鉱物としては、カオリン、ナクライト、ディッカイト、及びハロサイト等が挙げられる。

[0116] 上記アンティゴライト族粘土鉱物としては、アンティゴライト、アメサイト、及びクロンステダイト等が挙げられる。

[0117] 上記パイロフィライト族粘土鉱物としては、パイロフィライト、及びタルク（滑石）等が挙げられる。

[0118] 上記雲母族粘土鉱物としては、イライト、海緑石、セラドナイト、セリサイト、マイカ（雲母）、白雲母、クロム白雲母、及び黒雲母等が挙げられる。

[0119] 上記スメクタイト族粘土鉱物としては、ベントナイト、モンモリロナイト、バイデライト、ノントナイト、サポナイト、ヘクトライト、及びルーセントナイト等が挙げられる。

[0120] 上記バーミキュライト族粘土鉱物としては、バーミキュライト等が挙げられる。

[0121] 上記緑泥石族粘土鉱物としては、緑泥石（クロライト）等が挙げられる。

[0122] 上記有機変性粘土鉱物としては、スメクタイト族粘土鉱物又はバーミキュライト族粘土鉱物などが有機変性処理された有機変性粘土鉱物等が挙げられる。有機変性処理には、第4級アンモニウム塩型カチオン界面活性剤が好適に用いられる。上記第4級アンモニウム塩型カチオン界面活性剤としては、塩化アルキルトリメチルアンモニウム、塩化ジアルキルジメチルアンモニウム及び塩化ベンザルコニウム等が挙げられる。

[0123] 成分（G）は、カオリン、シリカ、ケイソウ土、タルク、及びベントナイ

トからなる群より選ばれる粉体（少なくとも１の粉体）を含むことが好ましい。この場合には、油中水型乳化化粧料組成物の性状を硬い性状としやすくなる。

[0124] 本明細書においては、上記「カオリン、シリカ、ケイソウ土、タルク、及びベントナイトからなる群より選ばれる粉体」を「成分（G 1）」と称する場合がある。

[0125] したがって、成分（G）は、成分（G 1）を含むことが好ましい。上記油中水型乳化化粧料組成物は、成分（G 1）を含むことが好ましい。

[0126] 上記油中水型乳化化粧料組成物１００質量％中、成分（G 1）の含有量は、好ましくは０．１質量％以上、より好ましくは０．５質量％以上、更に好ましくは０．７質量％以上、好ましくは５０．０質量％以下、より好ましくは４０．０質量％以下、より一層好ましくは３０．０質量％以下、更に好ましくは２０．０質量％以下、更に一層好ましくは１０．０質量％以下、特に好ましくは５．０質量％以下である。

[0127] 上記油中水型乳化化粧料組成物１００質量％中、成分（G）の含有量は、好ましくは０．５質量％以上、より好ましくは１．０質量％以上、好ましくは５０．０質量％以下、より好ましくは４０．０質量％以下である。

[0128] （他の成分）

上記油中水型乳化化粧料組成物は、上述した成分（A）～（G）以外の他の成分を含んでいてもよい。上記他の成分としては、成分（A）とは異なる２５℃で固形の油性成分、成分（B）とは異なる２５℃で液状の油性成分、成分（C）及び成分（F）の双方とは異なる界面活性剤（アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、ノニオン界面活性剤及び両性界面活性剤等）、多価アルコール、増粘剤、保湿剤、殺菌剤、パール化剤、抗炎症剤、清涼剤、pH調整剤、香料、紫外線吸収剤、酸化防止剤、金属イオン封鎖剤（キレート剤）、皮膜形成性ポリマー、色素、顔料、ビタミン類、アミノ酸類、収斂剤、美白剤、動植物抽出物、酸、及びアルカリ等が挙げられる。上記他の成分は、それぞれ１種のみが用いられてもよく、２種以上が用いられてもよい。

。

[0129] <成分（A）とは異なる 25℃で固形の油性成分>

上記油中水型乳化化粧料組成物は、成分（A）とは異なる 25℃で固形の油性成分（以下、25℃で固形の油性成分（X）と記載することがある）を含むことが好ましい。25℃で固形の油性成分（X）は、融点が 65℃未満又は 100℃を超える 25℃で固形の油性成分である。25℃で固形の油性成分（X）は、融点が 65℃未満である 25℃で固形の油性成分であることが好ましい。

[0130] 25℃で固形の油性成分（X）としては、ワセリン、ステアリルアルコール、シア脂、マンゴーバター、アストロカリウムムルムル種子脂、及びミツロウ等が挙げられる。

[0131] <成分（B）とは異なる 25℃で液状の油性成分>

上記油中水型乳化化粧料組成物は、成分（B）とは異なる 25℃で液状の油性成分（以下、25℃で液状の油性成分（X）と記載することがある）を含むことが好ましい。25℃で液状の油性成分（X）は、植物油及び脂肪酸トリグリセリドの双方とは異なる 25℃で液状の油性成分である。

[0132] 25℃で液状の油性成分（X）としては、炭化水素油、シリコーン油、及びエステル油等が挙げられる。

[0133] 上記炭化水素油（25℃で液状の炭化水素油）としては、 α -オレフィンオリゴマー、スクワラン（合成スクワラン、植物性スクワラン）、スクワレン、流動イソパラフィン、流動パラフィン（ミネラルオイル）、（C13-15）アルカン、水添ポリイソブテン、水添ポリデセン、軽質イソパラフィン（イソドデカン）、軽質流動イソパラフィン、及び流動イソパラフィン等が挙げられる。

[0134] 上記シリコーン油（25℃で液状のシリコーン油）としては、メチルポリシロキサン、メチルフェニルシロキサン、高重合メチルポリシロキサン、ポリ（オキシエチレン・オキシプロピレン）メチルポリシロキサン共重合体、シクロペンタシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、オクタメチ

ルシクロテトラシロキサン、ポリオキシエチレン・メチルポリシロキサン共重合体、アミノエチルアミノプロピルメチルシロキサン・ジメチルポリシロキサン共重合体、及びジメチコノール等が挙げられる。

- [0135] 上記エステル油（25℃で液状のエステル油）としては、イソノナン酸イソノニル、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸エチルヘキシル（パルミチン酸オクチル）、エチルヘキサン酸セチル、オペンタン酸イソデシル、ラウリン酸ヘキシル、ラウリン酸イソアミル、アジピン酸ジイソブチル、イソノナン酸エチルヘキシル（イソノナン酸オクチル）、イソノナン酸イソデシルミリスチン酸オクチルドデシル、コハク酸ジエチルヘキシル、オレイン酸オクチルドデシル、イソステアリン酸オクチルドデシル、リンゴ酸ジイソステアリル、セバシン酸ジエチルヘキシル、テトラ2-エチルヘキサン酸ペンタエリスリトール、テトラオクタン酸ペンタエリスリチル、及びテトライソステアリン酸ペンタエリトリット等が挙げられる。

- [0136] <HLB値が12.0を超える親水性の界面活性剤>

油中水型の乳化安定性をより一層高める観点から、上記油中水型乳化化粧料組成物では、HLB値が12.0を超える親水性の界面活性剤（以下、親水性の界面活性剤（X）と記載することがある）の含有量が少ないことが好ましい。上記油中水型乳化化粧料組成物は、親水性の界面活性剤（X）を含まないか又は3.0質量%以下の含有量で含むことが好ましい。上記油中水型乳化化粧料組成物が親水性の界面活性剤（X）を含む場合に、上記油中水型乳化化粧料組成物100質量%中、親水性の界面活性剤（X）の含有量は、好ましくは3.0質量%以下、より好ましくは2.0質量%以下、更に好ましくは1.0質量%以下である。特に、油中水型乳化化粧料組成物において、HLB値が12.0以下の界面活性剤の含有量よりも、親水性の界面活性剤（X）の含有量の方が多い場合には、油中水型乳化組成物を維持できなくなる可能性がある。

- [0137] （油中水型乳化化粧料組成物の他の詳細）

上記油中水型乳化化粧料組成物の製造方法は、特に限定されず、公知の油

中水型乳化化粧料組成物の製造方法を採用することができる。上記油中水型乳化化粧料組成物の製造方法としては、例えば、加熱しながら各成分を混合及び乳化して混合液を得た後、得られた混合液を冷却固化する方法等が挙げられる。各成分を混合する方法としては、ディスパーミキサー及びパドルミキサー等の攪拌装置を用いる方法等が挙げられる。

[0138] 上記油中水型乳化化粧料組成物は、例えば、容器に充填された形態で用いることができる。上記容器としては、チューブ容器、ディスペンサー容器（ポンプ容器）、ジャー容器、及び繰り出し容器等が挙げられる。上記容器は、ジャー容器であることが好ましい。

[0139] 上記油中水型乳化化粧料組成物の用途は、特に限定されない。上記油中水型乳化化粧料組成物の用途としては、例えば、整髪剤及びアウトバストリートメント剤等の毛髪化粧料；保湿化粧料（手指用、ボディ用、顔用、頭皮用等）等の皮膚化粧料などが挙げられる。上記油中水型乳化化粧料組成物は、例えば、毛髪化粧料組成物、又は皮膚化粧料組成物である。

[0140] 上記油中水型乳化化粧料組成物は、毛髪のまとまりを良好にする特性を有するので、毛髪化粧料組成物であることが好ましい。また、上記油中水型乳化化粧料組成物は、皮膚に保湿感を付与する特性を有するので、皮膚化粧料組成物であってもよい。さらに、上記油中水型乳化化粧料組成物は、毛髪化粧料と皮膚化粧料との両方に併用できる化粧料組成物であってもよい。上述のとおり、上記油中水型乳化化粧料組成物は、毛髪化粧料として毛髪に塗布して用いることに加えて、保湿等を目的として、皮膚に塗布して用いることもできる。

[0141] 上記油中水型乳化化粧料組成物の性状は、特に限定されない。上記油中水型乳化化粧料組成物の性状は、ゲル状であってもよく、バーム状であってもよく、クレイ状であってもよく、固形状であってもよく、これら以外の性状であってもよい。上記油中水型乳化化粧料組成物の性状は、バーム状又はクレイ状であることが好ましい。上記油中水型乳化化粧料組成物は、バーム状油中水型乳化化粧料組成物（所謂、ヘアバーム）であることが好ましく、ク

レイ状油中水型乳化化粧料組成物（所謂、ヘアクレイ）であることも好ましい。

[0142] 以下、バーム状油中水型乳化化粧料組成物とクレイ状油中水型乳化化粧料組成物とで、好ましい態様が異なる部分について特に記載する。

[0143] <バーム状油中水型乳化化粧料組成物（ヘアバーム）>

上記油中水型乳化化粧料組成物（バーム状油中水型乳化化粧料組成物）100質量%中、成分（B1）の含有量は、好ましくは0.3質量%以上、より好ましくは1.0質量%以上、更に好ましくは2.0質量%以上、好ましくは15.0質量%以下、より好ましくは10.0質量%以下である。成分（B1）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のまとまりをより一層良好にすることができる。

[0144] 上記油中水型乳化化粧料組成物（バーム状油中水型乳化化粧料組成物）100質量%中、成分（B2）の含有量は、好ましくは5.0質量%以上、より好ましくは10.0質量%以上、更に好ましくは15.0質量%以上、好ましくは50.0質量%以下、より好ましくは40.0質量%以下である。成分（B2）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のまとまりをより一層良好にすることができる。

[0145] 上記油中水型乳化化粧料組成物（バーム状油中水型乳化化粧料組成物）100質量%中、成分（B）の含有量は、好ましくは5.0質量%以上、より好ましくは10.0質量%以上、更に好ましくは15.0質量%以上、好ましくは50.0質量%以下、より好ましくは40.0質量%以下である。成分（B）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のまとまりをより一層良好にすることができる。

[0146] 上記油中水型乳化化粧料組成物（バーム状油中水型乳化化粧料組成物）100質量%中、成分（B）、成分（B）以外のエステル油、炭化水素油、及

びシリコーン油からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分の含有量は、好ましくは15.0質量%以上、より好ましくは30.0質量%以上、更に好ましくは35.0質量%以上、好ましくは70.0質量%以下、より好ましくは60.0質量%以下である。上記25℃で液状の油性成分の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のとまりをより一層良好にすることができる。なお、上記「成分(B)、成分(B)以外のエステル油、炭化水素油、及びシリコーン油からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分」とは、言い換えると、「植物油、脂肪酸トリグリセリド、植物油以外のエステル油、脂肪酸トリグリセリド以外のエステル油、炭化水素油、及びシリコーン油からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分」である。

[0147] <クレイ状油中水型乳化化粧料組成物(ヘアクレイ)>

上記油中水型乳化化粧料組成物(クレイ状油中水型乳化化粧料組成物)100質量%中、成分(B1)の含有量は、好ましくは0.3質量%以上、より好ましくは1.0質量%以上、好ましくは20.0質量%以下、より好ましくは15.0質量%以下である。成分(B1)の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のとまりをより一層良好にすることができる。

[0148] 上記油中水型乳化化粧料組成物(クレイ状油中水型乳化化粧料組成物)100質量%中、成分(B2)の含有量は、好ましくは1.0質量%以上、より好ましくは2.0質量%以上、好ましくは30.0質量%以下、より好ましくは20.0質量%以下である。成分(B2)の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のとまりをより一層良好にすることができる。

[0149] 上記油中水型乳化化粧料組成物(クレイ状油中水型乳化化粧料組成物)100質量%中、成分(B)の含有量は、好ましくは3.0質量%以上、より好ましくは5.0質量%以上、好ましくは30.0質量%以下、より好ましくは25.0質量%以下である。成分(B)の含有量が上記下限以上及び上

記上限以下であると、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪
のまとまりをより一層良好にすることができる。

[0150] 上記油中水型乳化化粧料組成物（クレイ状油中水型乳化化粧料組成物）1
00質量%中、成分（B）、成分（B）以外のエステル油、炭化水素油、及
びシリコン油からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分の含有量は
、好ましくは5.0質量%以上、より好ましくは10.0質量%以上、好ま
しくは30.0質量%以下、より好ましくは25.0質量%以下である。上
記25℃で液状の油性成分の含有量が上記下限以上及び上記上限以下である
と、のびをより一層良好にすることができる。また、毛髪のまとまりをより
一層良好にすることができる。なお、上記「成分（B）、成分（B）以外の
エステル油、炭化水素油、及びシリコン油からなる群より選ばれる25℃
で液状の油性成分」とは、言い換えると、「植物油、脂肪酸トリグリセリド
、植物油以外のエステル油、脂肪酸トリグリセリド以外のエステル油、炭化
水素油、及びシリコン油からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分
」である。

[0151] 上記油中水型乳化化粧料組成物（クレイ状油中水型乳化化粧料組成物）は
、成分（G）を含むことが好ましい。成分（G）を用いることにより、油中
水型乳化化粧料組成物の性状を硬い性状とすることができる。油中水型乳化
化粧料組成物の性状を硬い性状とする効果に加えてマットな（艶消しの）質
感を付与する観点からは、成分（G）は、成分（G1）を含むことが好まし
い。したがって、上記油中水型乳化化粧料組成物（クレイ状油中水型乳化化
粧料組成物）は、成分（G1）を含むことが好ましい。

[0152] 上記油中水型乳化化粧料組成物（クレイ状油中水型乳化化粧料組成物）1
00質量%中、成分（G）の含有量は、好ましくは5.0質量%以上、より
好ましくは10.0質量%以上、好ましくは50.0質量%以下、より好ま
しくは40.0質量%以下である。成分（G）の含有量が上記下限以上及び
上記上限以下であると、油中水型乳化化粧料組成物の性状を硬い性状とす
ることができる。

- [0153] 上記油中水型乳化化粧料組成物（クレイ状油中水型乳化化粧料組成物） 100質量%中、成分（G1）の含有量は、好ましくは5.0質量%以上、より好ましくは10.0質量%以上、好ましくは50.0質量%以下、より好ましくは40.0質量%以下である。成分（G1）の含有量が上記下限以上及び上記上限以下であると、油中水型乳化化粧料組成物の性状を硬い性状とすることができる。

実施例

- [0154] 以下、本発明について、実施例及び比較例を挙げて具体的に説明する。本発明は、以下の実施例のみに限定されない。

- [0155] 実施例及び比較例では、下記の成分を用いた。

- [0156] （成分（A））

カルナウバロウ（融点：88℃）

ヒマワリ種子ロウ（融点：78℃）

コメヌカロウ（融点：78℃）

キャンデリラロウ（融点：70℃）

マイクロクリスタリンワックス1（日本精蠟社製「HI-MIC1090」、融点：88℃）

マイクロクリスタリンワックス2（Sonneborn社製「MULTI WAX W-835」、融点：76℃）

パラフィンワックス1（融点：73℃）

- [0157] （成分（B））

トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル

トリ（カプリル酸／カプリン酸）グリセリル

ヒマシ油

クランベアビシニカ種子油

アルガンオイル

ホホバ油

- [0158] （成分（C））

ステアリン酸ソルビタン（HLB値：4.5）

ベヘン酸グリセリル（HLB値：3.4）

ポリオキシエチレン（5E.O.）ベヘニルエーテル（HLB値：7.0）

ステアリン酸グリセリル（HLB値：3.0）

[0159] （成分（D））

精製水

[0160] （成分（E））

ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-5

ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-6

ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-3

[0161] （成分（F））

トリセテアレス-4リン酸（HLB値：10.0～11.0）

[0162] （成分（G））

カオリン

シリカ

[0163] （その他）

ジオレス-8リン酸Na（HLB値：12.5）

ジステアリン酸PEG-250（HLB値：19.2）

ミネラルオイル（25℃で液状の油性成分）

水添ポリイソブテン（25℃で液状の油性成分）

イソノナン酸イソノニル（25℃で液状の油性成分）

ミリスチン酸イソプロピル（25℃で液状の油性成分）

オクタステアリン酸ポリグリセリル-6（25℃で液状の油性成分）

ワセリン（25℃で固形の油性成分）

パラフィンワックス2（融点：53℃）

ステアリルアルコール（25℃で固形の油性成分）

ミツロウ（25℃で固形の油性成分）

シア脂（25℃で固形の油性成分）

トリイソステアリンPOE（20）グリセリル（HLB値：8.0）

セテスー40（HLB値：20.0）

グリセリン（多価アルコール）

ジプロピレングリコール（多価アルコール）

[0164] （実施例1～17及び比較例1～5）

下記の表1～5に示す配合成分を配合（配合単位は質量％）し、加熱しながら各成分を混合及び乳化して混合液を調製した。得られた混合液50gをジャー容器（円筒状、底部の直径45mm、高さ45mm）に注入した。注入後、24時間静置することにより、混合液を冷却し固化させて、油中水型乳化化粧料組成物を調製した。表中の配合量（油中水型乳化化粧料組成物100質量％中の配合量）は、純分の配合量（単位：質量％）で示した。

[0165] なお、実施例1～10で作製した油中水型乳化化粧料組成物は、バーム状油中水型乳化化粧料組成物（ヘアバーム）であり、実施例11～17で作製した油中水型乳化化粧料組成物は、クレイ状油中水型乳化化粧料組成物（ヘアクレイ）である。なお、比較例1で作製した油中水型乳化化粧料組成物は、バーム状ともクレイ状とも異なる性状の化粧料組成物であった。また、比較例2, 3では、組成物を乳化させることができなかったため、以降の評価は行わなかった。さらに、比較例4, 5では、組成物を油中水型に乳化させることができず、水中油型乳化化粧料組成物が得られたため、試験例3以外の評価は行わなかった。

[0166] （比較対象例1：油性化粧料組成物（ヘアバーム））

下記の表6に示す配合成分を配合（配合単位は質量％）し、加熱混合して混合液を調製した。得られた混合液50gをジャー容器（円筒状、底部の直径45mm、高さ45mm）に注入した。注入後、24時間静置することにより、混合液を冷却し固化させて、油性化粧料組成物（ヘアバーム）を調製した。表中の配合量（油性化粧料組成物100質量％中の配合量）は、純分の配合量（単位：質量％）で示した。

[0167] (比較対象例 2 : 油性化粧料組成物 (ヘアクレイ))

下記の表 6 に示す配合成分を配合 (配合単位は質量%) し、加熱混合して混合液を調製した。得られた混合液 50 g をジャー容器 (円筒状、底部の直径 45 mm、高さ 45 mm) に注入した。注入後、24 時間静置することにより、混合液を冷却し固化させて、油性化粧料組成物 (ヘアクレイ) を調製した。表中の配合量 (油性化粧料組成物 100 質量%中の配合量) は、純分の配合量 (単位 : 質量%) で示した。

[0168] (評価)

得られた油中水型乳化化粧料組成物及び油性化粧料組成物について、以下の評価を行った。なお、試験例 1 ~ 4 の評価は専門パネル 3 名で行い、協議して評価結果を決定した。

[0169] (試験例 1 : のび)

同じ性状を有する油性化粧料組成物と比べて、得られた油中水型乳化化粧料組成物ののびが良好であるか否かを評価した。すなわち、実施例 1 ~ 10 で作製した油中水型乳化化粧料組成物 (ヘアバーム) は、比較対象例 1 で作製した油性化粧料組成物 (ヘアバーム) と比較した。また、実施例 11 ~ 17 で作製した油中水型乳化化粧料組成物 (ヘアクレイ) は、比較対象例 2 で作製した油性化粧料組成物 (ヘアクレイ) と比較した。なお、比較例 1 で作製した油中水型乳化化粧料組成物は、比較対象例 1 で作製した油性化粧料組成物 (ヘアバーム) と比較した。

[0170] 得られた化粧料組成物約 1 g を掌にとり、両手の掌をこすりあわせて掌上でのばした際ののびやすさを下記の基準で評価した。

[0171] <のびの評価基準>

○ (良好) : 比較対象例と比べて、のびが明らかに良好である

× (不良) : 比較対象例と比べて、のびがわずかによい程度であるか又は同等以下である

[0172] (試験例 2 : 毛髪のまとまり)

得られた油中水型乳化化粧料組成物約 1 g を掌にとり、掌上でのばした後

、ゆるいウェーブのついたミディアムヘアのヘアウィッグ（ユーカリジャパン社製）に、毛髪をにぎるようにして塗布し、整髪を施した（ウェーブのついた髪型）。整髪してから3時間後のウィッグの毛髪を目視で観察し、毛髪のまとまりを下記の基準で評価した。

[0173] <毛髪のまとまりの評価基準>

○（良好）：ウェーブのついた髪型が維持されている

×（不良）：毛髪がバラけたり、ウェーブが落ちたりして、髪型が維持できていない

[0174] （試験例3：べたつき）

試験例2で整髪した直後のウィッグを手で触った。その結果、実施例で得られた油中水型乳化化粧品組成物を用いて整髪したウィッグでは、べたつきが感じられなかった。一方、比較例4，5で得られた水中油型乳化化粧品組成物を用いて試験例2と同様にして整髪したウィッグを手で触ったところ、べたつきが感じられた。

[0175] （試験例4：保湿感）

試験例2で整髪した後、掌に残った油中水型乳化化粧品組成物を手の甲に塗り広げるように塗布したところ、実施例で得られた油中水型乳化化粧品組成物では、しっとりとした良好な保湿感が感じられた。

[0176] 組成及び結果を下記の表1～6に示す。

[0177]

[表1]

			実施例				
			1	2	3	4	5
成分(A)	カルナウパロウ(融点: 88°C)	質量%	2.0	2.0	2.0	1.0	
	ヒマワリ種子ロウ(融点: 78°C)	質量%					3.0
	コメヌカロウ(融点: 78°C)	質量%				1.0	
	キャンデリラロウ(融点: 70°C)	質量%					
	マイクロクリスタリンワックス1(融点: 88°C)	質量%	3.0	3.0	3.0	5.0	3.0
	マイクロクリスタリンワックス2(融点: 76°C)	質量%	6.0	6.0	6.0	2.0	2.0
	パラフィンワックス1(融点: 73°C)	質量%	2.0	2.0	2.0		2.0
成分(B)	トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	質量%	25.0	20.0	20.0	5.0	13.0
	トリ(カプリル酸/カプリン酸)グリセリル	質量%				20.0	
	ヒマシ油	質量%	3.0	5.0	5.0		3.0
	クランベアピシニカ種子油	質量%	1.0			1.0	2.0
	アルガンオイル	質量%				0.5	1.0
	ホホバ油	質量%					1.0
成分(C)	ステアリン酸ソルビタン(HLB値: 4.5)	質量%				1.0	4.0
	ベヘン酸グリセリル(HLB値: 3.4)	質量%	2.0	2.0	2.0		
	ポリオキシエチレン(5E.O.)ベヘニルエーテル(HLB値: 7.0)	質量%					
	ステアリン酸グリセリル(HLB値: 3.0)	質量%				3.0	1.0
成分(D)	精製水	質量%	32.0	30.0	30.0	28.0	35.0
成分(E)	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-5	質量%	1.0	1.0	3.0	1.0	
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-6	質量%					2.0
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-3	質量%				1.0	
	ミネラルオイル	質量%	残部	残部	残部	残部	残部
	水添ポリイソブテン	質量%	6.0	6.0	6.0		7.0
	イソノナン酸イソノニル	質量%	1.0	1.0	1.0		
	ミリスチン酸イソプロピル	質量%					
	オクタステアリン酸ポリグリセリル-6	質量%	2.0				
	ワセリン	質量%					
	パラフィンワックス2(融点: 53°C)	質量%					
	ステアリルアルコール	質量%	1.0	1.0	1.0		
	ミツロウ	質量%					
	シア脂	質量%					
成分(F)	トリセテアレス-4リン酸(HLB値: 10.0~11.0)	質量%	1.0	1.5	1.5	1.0	1.0
	ジオレス-8リン酸Na(HLB値: 12.5)	質量%					
	ジステアリン酸PEG-250(HLB値: 19.2)	質量%	0.1	0.1			
	トリイソステアリンPOE(20)グリセリル(HLB値: 8.0)	質量%	3.0				2.0
	セテス-40(HLB値: 20.0)	質量%					
	グリセリン	質量%	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
成分(G)	ジブロピレングリコール	質量%					
	カオリン	質量%					
	シリカ	質量%					
	合計	質量%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
成分(A)の含有量		質量%	13.0	13.0	13.0	9.0	10.0
成分(B)の含有量		質量%	29.0	25.0	25.0	26.5	20.0
評価	のび		○	○	○	○	○
	毛髪のまとまり		○	○	○	○	○

[0178]

[表2]

			実施例				
			6	7	8	9	10
成分(A)	カルナウパロウ(融点: 88°C)	質量%	1.0		2.0	2.0	1.0
	ヒマワリ種子ロウ(融点: 78°C)	質量%					1.0
	コメヌカロウ(融点: 78°C)	質量%					
	キャンデリラロウ(融点: 70°C)	質量%	1.0				
	マイクロクリスタリンワックス1(融点: 88°C)	質量%	3.0	1.0	3.0	3.0	3.0
	マイクロクリスタリンワックス2(融点: 76°C)	質量%	6.0	8.0	10.0	10.0	
	パラフィンワックス1(融点: 73°C)	質量%	2.0	5.0			3.0
成分(B)	トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	質量%	15.0	20.0	10.0	10.0	5.0
	トリ(カプリル酸/カプリン酸)グリセリル	質量%			10.0		
	ヒマシ油	質量%		5.0		5.0	10.0
	クランベアビシニカ種子油	質量%					
	アルガンオイル	質量%		1.0			1.0
	ホホバ油	質量%					
成分(C)	ステアリン酸ソルピタン(HLB値: 4.5)	質量%	2.0	2.0			
	ベヘン酸グリセリル(HLB値: 3.4)	質量%	1.0		1.5	1.5	1.0
	ポリオキシエチレン(5E.O.)ベヘニルエーテル(HLB値: 7.0)	質量%		1.0			2.0
	ステアリン酸グリセリル(HLB値: 3.0)	質量%					
成分(D)	精製水	質量%	30.0	30.0	28.0	30.0	30.0
成分(E)	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-5	質量%	2.0	3.0			
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-6	質量%			0.5		
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-3	質量%					1.0
	ミネラルオイル	質量%	残部	残部	残部	残部	残部
	水添ポリイソブテン	質量%		3.0			
	イソノナン酸イソノニル	質量%					
	ミリスチン酸イソプロピル	質量%				10.0	
	オクタステアリン酸ポリグリセリル-6	質量%	1.0		1.5	1.5	
	ワセリン	質量%					3.0
	パラフィンワックス2(融点: 53°C)	質量%					5.0
	ステアリルアルコール	質量%			1.0	1.0	
	ミツロウ	質量%				0.5	
	シア脂	質量%	2.0		0.5		
成分(F)	トリセテアレス-4リン酸(HLB値: 10.0~11.0)	質量%		1.0			
	ジオレス-8リン酸Na(HLB値: 12.5)	質量%					
	ジステアリン酸PEG-250(HLB値: 19.2)	質量%			0.1		
	トリイソステアリンPOE(20)グリセリル(HLB値: 8.0)	質量%	2.0	2.0		3.0	
	セテス-40(HLB値: 20.0)	質量%					
	グリセリン	質量%	3.0	3.0	3.0	3.0	
	ジブロピレングリコール	質量%					3.0
成分(G)	カオリン	質量%					
	シリカ	質量%					
合計		質量%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
成分(A)の含有量		質量%	13.0	14.0	15.0	15.0	8.0
成分(B)の含有量		質量%	15.0	26.0	20.0	15.0	16.0
評価	のび		○	○	○	○	○
	毛髪のまとまり		○	○	○	○	○

[0179]

[表3]

			実施例			
			11	12	13	14
成分(A)	カルナウバロウ(融点:88℃)	質量%	1.0	3.0	3.0	1.0
	ヒマワリ種子ロウ(融点:78℃)	質量%				
	コメヌカロウ(融点:78℃)	質量%				
	キャンデリラロウ(融点:70℃)	質量%				
	マイクロクリスタリンワックス1(融点:88℃)	質量%	6.0		2.0	6.0
	マイクロクリスタリンワックス2(融点:76℃)	質量%	8.0		6.0	8.0
	パラフィンワックス1(融点:73℃)	質量%	5.0	3.0	4.5	5.0
成分(B)	トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	質量%	8.0	12.0	8.0	8.0
	トリ(カプリル酸/カプリン酸)グリセリル	質量%				
	ヒマシ油	質量%	4.0	4.0	4.0	4.0
	クランベアピシニカ種子油	質量%				
	アルガンオイル	質量%				
	ホホバ油	質量%				
成分(C)	ステアリン酸ソルビタン(HLB値:4.5)	質量%	2.0	2.0		2.0
	ベヘン酸グリセリル(HLB値:3.4)	質量%				
	ポリオキシエチレン(5E.O.)ベヘニルエーテル(HLB値:7.0)	質量%				
	ステアリン酸グリセリル(HLB値:3.0)	質量%			2.0	
成分(D)	精製水	質量%	30.0	30.0	30.0	30.0
成分(E)	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-5	質量%	1.0		1.0	1.0
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-6	質量%				
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-3	質量%		1.0		
	ミネラルオイル	質量%	残部	残部	残部	残部
	水添ポリイソブテン	質量%				
	イソノナン酸イソノニル	質量%				
	ミリスチン酸イソプロピル	質量%				
	オクタステアリン酸ポリグリセリル-6	質量%				
	ワセリン	質量%				
	パラフィンワックス2(融点:53℃)	質量%		5.0		
	ステアリルアルコール	質量%		1.0		
	ミツロウ	質量%				
	シア脂	質量%			1.0	
成分(F)	トリセテアレス-4リン酸(HLB値:10.0~11.0)	質量%	2.0	2.0	2.0	2.0
	ジオレス-8リン酸Na(HLB値:12.5)	質量%				
	ジステアリン酸PEG-250(HLB値:19.2)	質量%		0.1	0.5	0.3
	トリスステアリンPOE(20)グリセリル(HLB値:8.0)	質量%	3.0	3.0		
	セテス-40(HLB値:20.0)	質量%				
	グリセリン	質量%	3.0	3.0		3.0
	ジプロピレングリコール	質量%			3.0	
成分(G)	カオリン	質量%	20.0	20.0	20.0	20.0
	シリカ	質量%				
合計		質量%	100.0	100.0	100.0	100.0
成分(A)の含有量		質量%	20.0	6.0	15.5	20.0
成分(B)の含有量		質量%	12.0	16.0	12.0	12.0
評価	のび		○	○	○	○
	毛髪のまとまり		○	○	○	○

[表4]

			実施例		
			15	16	17
成分(A)	カルナウバロウ(融点:88℃)	質量%	1.0	1.0	1.0
	ヒマワリ種子ロウ(融点:78℃)	質量%			
	コメヌカロウ(融点:78℃)	質量%			
	キャンデリラロウ(融点:70℃)	質量%			
	マイクロクリスタリンワックス1(融点:88℃)	質量%	2.0	2.0	2.0
	マイクロクリスタリンワックス2(融点:76℃)	質量%	6.0	6.0	6.0
	パラフィンワックス1(融点:73℃)	質量%	1.0	1.0	1.0
成分(B)	トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	質量%	10.0	13.0	10.0
	トリ(カプリル酸/カプリン酸)グリセリル	質量%			
	ヒマシ油	質量%	4.0	4.0	4.0
	クランベアビシニカ種子油	質量%			
	アルガンオイル	質量%			
	ホホバ油	質量%			
成分(C)	ステアリン酸ソルビタン(HLB値:4.5)	質量%	2.0	2.0	
	ペヘン酸グリセリル(HLB値:3.4)	質量%			1.0
	ポリオキシエチレン(5E.O.)ペヘニルエーテル(HLB値:7.0)	質量%			
	ステアリン酸グリセリル(HLB値:3.0)	質量%			
成分(D)	精製水	質量%	34.0	31.0	35.0
成分(E)	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-5	質量%	2.0	2.0	0.5
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-6	質量%			0.5
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-3	質量%			
	ミネラルオイル	質量%			
	水添ポリイソブテン	質量%			
	イソノナン酸イソノニル	質量%			
	ミリスチン酸イソプロピル	質量%			
	オクタステアリン酸ポリグリセリル-6	質量%			1.0
	ワセリン	質量%			
	パラフィンワックス2(融点:53℃)	質量%			
	ステアリルアルコール	質量%			
	ミツロウ	質量%			
	シア脂	質量%			
成分(F)	トリセテアレス-4リン酸(HLB値:10.0~11.0)	質量%	2.0	2.0	2.0
	ジオレス-8リン酸Na(HLB値:12.5)	質量%			
	ジステアリン酸PEG-250(HLB値:19.2)	質量%			
	トリイソステアリンPOE(20)グリセリル(HLB値:8.0)	質量%	3.0	3.0	3.0
	セテス-40(HLB値:20.0)	質量%			
	グリセリン	質量%	3.0	3.0	3.0
	ジプロピレングリコール	質量%			
成分(G)	カオリン	質量%	30.0	10.0	15.0
	シリカ	質量%		20.0	15.0
合計		質量%	100.0	100.0	100.0
成分(A)の含有量		質量%	10.0	10.0	10.0
成分(B)の含有量		質量%	14.0	17.0	14.0
評価	のび		○	○	○
	毛髪のまとまり		○	○	○

[0181] [表5]

			比較例				
			1	2	3	4	5
成分(A)	カルナウバロウ(融点:88℃)	質量%	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0
	ヒマワリ種子ロウ(融点:78℃)	質量%					
	コメヌカロウ(融点:78℃)	質量%					
	キャンデリラロウ(融点:70℃)	質量%					
	マイクロクリスタリンワックス1(融点:88℃)	質量%	3.0	3.0	3.0	3.0	
	マイクロクリスタリンワックス2(融点:76℃)	質量%	6.0	6.0	6.0	6.0	
	パラフィンワックス1(融点:73℃)	質量%	2.0	2.0	2.0	2.0	4.0
成分(B)	トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	質量%		25.0	25.0	20.0	8.0
	トリ(カプリル酸/カプリン酸)グリセリル	質量%					
	ヒマシ油	質量%		3.0	3.0	5.0	4.0
	クランベアビシニカ種子油	質量%		1.0	1.0		
	アルガンオイル	質量%					
	ホホバ油	質量%					
成分(C)	ステアリン酸ソルピタン(HLB値:4.5)	質量%					
	ベヘン酸グリセリル(HLB値:3.4)	質量%	2.0		2.0		
	ポリオキシエチレン(5E.O.)ベヘニルエーテル(HLB値:7.0)	質量%					
	ステアリン酸グリセリル(HLB値:3.0)	質量%					
成分(D)	精製水	質量%	32.0	32.0		30.0	30.0
成分(E)	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-5	質量%	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-6	質量%					
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-3	質量%					
	ミネラルオイル	質量%	残部	残部	残部	残部	残部
	水添ポリイソブテン	質量%	6.0	6.0	6.0	6.0	
	イソノナン酸イソノニル	質量%	1.0	1.0	1.0	1.0	
	ミリスチン酸イソプロピル	質量%					
	オクタステアリン酸ポリグリセリル-6	質量%	2.0	2.0	2.0		
	ワセリン	質量%					6.0
	パラフィンワックス2(融点:53℃)	質量%					8.0
	ステアリルアルコール	質量%	1.0	1.0	1.0	1.0	
	ミツロウ	質量%					
	シア脂	質量%					
成分(F)	トリセアレス-4リン酸(HLB値:10.0~11.0)	質量%	1.0		1.0		
	ジオレス-8リン酸Na(HLB値:12.5)	質量%					5.0
	ジステアリン酸PEG-250(HLB値:19.2)	質量%					
	トリイソステアリンPOE(20)グリセリル(HLB値:8.0)	質量%					
	セテス-40(HLB値:20.0)	質量%				3.0	1.0
	グリセリン	質量%	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
	ジブロピレングリコール	質量%					
成分(G)	カオリン	質量%					20.0
	シリカ	質量%					
合計		質量%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
成分(A)の含有量		質量%	13.0	13.0	13.0	13.0	7.0
成分(B)の含有量		質量%	0.0	29.0	29.0	25.0	12.0
評価	のび		×	-	-	-	-
	毛髪のまとまり		×	-	-	-	-

[0182]

[表6]

			比較対象例	
			1	2
成分(A)	カルナウバロウ(融点:88℃)	質量%		10.0
	ヒマワリ種子ロウ(融点:78℃)	質量%		
	コメヌカロウ(融点:78℃)	質量%		
	キャンデリラロウ(融点:70℃)	質量%		
	マイクロクリスタリンワックス1(融点:88℃)	質量%		
	マイクロクリスタリンワックス2(融点:76℃)	質量%		20.0
	パラフィンワックス1(融点:73℃)	質量%		
成分(B)	トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	質量%		
	トリ(カプリル酸/カプリン酸)グリセリル	質量%		
	ヒマシ油	質量%		
	克蘭ベアビシニカ種子油	質量%		
	アルガンオイル	質量%		
	ホホバ油	質量%		
成分(C)	ステアリン酸ソルビタン(HLB値:4.5)	質量%		
	ペヘン酸グリセリル(HLB値:3.4)	質量%		
	ポリオキシエチレン(5E.O.)ペヘニルエーテル(HLB値:7.0)	質量%		
	ステアリン酸グリセリル(HLB値:3.0)	質量%		
成分(D)	精製水	質量%		
成分(E)	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-5	質量%		
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-6	質量%		
	ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-3	質量%		
	ミネラルオイル	質量%		1.0
	水添ポリイソブテン	質量%		
	イソノナン酸イソノニル	質量%		
	ミリスチン酸イソプロピル	質量%		
	オクタステアリン酸ポリグリセリル-6	質量%		
	ワセリン	質量%		残部
	パラフィンワックス2(融点:53℃)	質量%		5.0
	ステアリルアルコール	質量%		
	ミツロウ	質量%	10.0	
	シア脂	質量%	80.0	
成分(F)	トリセテアレス-4リン酸(HLB値:10.0~11.0)	質量%		
	ジオレス-8リン酸Na(HLB値:12.5)	質量%		
	ジステアリン酸PEG-250(HLB値:19.2)	質量%		
	トリスステアリンPOE(20)グリセリル(HLB値:8.0)	質量%	10.0	17.0
	セテス-40(HLB値:20.0)	質量%		
	グリセリン	質量%		
	ジプロピレングリコール	質量%		
成分(G)	カオリン	質量%		20.0
	シリカ	質量%		
合計		質量%	100.0	100.0
成分(A)の含有量		質量%	0.0	30.0
成分(B)の含有量		質量%	0.0	0.0

[0183] 以下に、本発明の油中水型乳化化粧料組成物の処方例を示す。

[0184] (処方例1:ヘアバーム)

カルナウバロウ

2.0質量%

コメヌカロウ	1. 0 質量%
マイクロクリスタリンワックス（融点：88℃）	3. 0 質量%
トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	20. 0 質量%
ヒマシ油	3. 0 質量%
アルガンオイル	2. 0 質量%
ベヘン酸グリセリル	1. 5 質量%
ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-5	2. 0 質量%
ミネラルオイル	残 部
水添ポリイソブテン	3. 0 質量%
ステアリルアルコール	1. 0 質量%
オクタステアリン酸ポリグリセリル-6	1. 5 質量%
トリセテアレス-4リン酸	1. 5 質量%
ジステアリン酸PEG-250	0. 1 質量%
香料	適 量
グリセリン	3. 0 質量%
酢酸トコフェロール	0. 5 質量%
フェノキシエタノール	0. 8 質量%
1, 2-ペンタンジオール	0. 8 質量%
水	30. 0 質量%
合計	100. 0 質量%

[0185] （処方例2：ヘアバーム）

ヒマワリ種子ロウ	3. 0 質量%
マイクロクリスタリンワックス（融点：88℃）	3. 0 質量%
パラフィンワックス（融点：73℃）	3. 0 質量%
パラフィンワックス（融点：53℃）	6. 0 質量%
トリ（カプリル酸／カプリン酸）グリセリル	20. 0 質量%
ヒマシ油	4. 0 質量%
クランベアビシニカ種子油	1. 0 質量%

アルガンオイル	1.0 質量%
ベヘン酸グリセリル	1.0 質量%
ポリオキシエチレン (5 E. O.) ベヘニルエーテル	1.0 質量%
ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-6	2.0 質量%
ミネラルオイル	残 部
オクタステアリン酸ポリグリセリル-6	1.5 質量%
トリセテアレス-4 リン酸	1.5 質量%
ジステアリン酸 PEG-250	0.1 質量%
トリイソステアリン POE (20) グリセリル	3.0 質量%
香料	適 量
グリセリン	3.0 質量%
フェノキシエタノール	0.8 質量%
1, 2-オクタンジオール	0.5 質量%
加水分解ケラチン	0.5 質量%
水	32.0 質量%
合計	100.0 質量%

[0186] (処方例 3 : 皮膚保護用バーム)

マイクロクリスタリンワックス (融点 : 88℃)	3.0 質量%
パラフィンワックス (融点 : 73℃)	2.0 質量%
パラフィンワックス (融点 : 53℃)	6.0 質量%
トリ (カプリル酸/カプリン酸) グリセリル	15.0 質量%
ホホバ油	5.0 質量%
アボカド油	5.0 質量%
クランベアビシニカ種子油	3.0 質量%
ベヘン酸グリセリル	1.0 質量%
ステアリン酸ソルビタン	1.0 質量%
ポリオキシエチレン (5 E. O.) ベヘニルエーテル	1.0 質量%
ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-6	2.0 質量%

ミネラルオイル	残 部
ジステアリン酸PEG-250	0.1質量%
グリセリン	3.0質量%
フェノキシエタノール	0.5質量%
1,2-オクタンジオール	0.5質量%
加水分解ヒアルロン酸	0.5質量%
水	35.0質量%
合計	100.0質量%

[0187] (処方例4：ヘアクレイ)

カルナウバロウ	2.0質量%
コメヌカロウ	1.0質量%
マイクロクリスタリンワックス (融点：88℃)	5.0質量%
パラフィンワックス (融点：73℃)	3.0質量%
トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	8.0質量%
ヒマシ油	4.0質量%
ステアリン酸ソルビタン	2.0質量%
ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-5	2.0質量%
ミネラルオイル	残 部
トリセテアレス-4リン酸	1.5質量%
ジステアリン酸PEG-250	0.3質量%
カオリン	20.0質量%
マイカ	5.0質量%
ジプロピレングリコール	3.0質量%
酢酸トコフェロール	0.5質量%
フェノキシエタノール	0.8質量%
1,2-ペンタンジオール	0.8質量%
香料	適 量
水	30.0質量%

合計	100.0質量%
[0188] (処方例5：ヘアクレイ)	
カルナウバロウ	2.0質量%
コメヌカロウ	1.0質量%
マイクロクリスタリンワックス（融点：88℃）	5.0質量%
トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	8.0質量%
ヒマシ油	4.0質量%
ステアリン酸グリセリン	3.0質量%
ポリリシノレイン酸ポリグリセリル-3	2.0質量%
ミネラルオイル	残部
トリセテアレス-4リン酸	1.0質量%
トリイソステアリンPOE（20）グリセリル	3.0質量%
ジステアリン酸PEG-250	0.5質量%
カオリン	20.0質量%
シリカ	3.0質量%
ベントナイト	2.0質量%
薬用炭	0.5質量%
ジプロピレングリコール	3.0質量%
酢酸トコフェロール	0.5質量%
フェノキシエタノール	0.8質量%
1,2-ペンタンジオール	0.8質量%
香料	適量
水	30.0質量%
合計	100.0質量%

請求の範囲

- [請求項1] 下記成分 A と、下記成分 B と、下記成分 C と、下記成分 D とを含み、
- 前記成分 D の含有量が、15.0質量%以上、50.0質量%以下である、油中水型乳化化粧料組成物。
- 成分 A：動植物油及び炭化水素油からなる群より選ばれる融点が65℃以上、100℃以下である25℃で固形の油性成分
- 成分 B：植物油及び脂肪酸トリグリセリドからなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分
- 成分 C：炭素数13以上の直鎖飽和アルキル鎖を有しかつHLB値が2.8以上、8.0以下であるノニオン界面活性剤
- 成分 D：水
- [請求項2] 下記成分 E を含む、請求項1に記載の油中水型乳化化粧料組成物。
- 成分 E：ポリリシノレイン酸ポリグリセリル
- [請求項3] 下記成分 F を含む、請求項1又は2に記載の油中水型乳化化粧料組成物。
- 成分 F：HLB値が8.0を超え、12.0以下であるリン酸系界面活性剤
- [請求項4] 前記成分 B、前記成分 B 以外のエステル油、炭化水素油、及びシリコーン油からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分の含有量が、15.0質量%以上、70.0質量%以下である、請求項1又は2に記載の油中水型乳化化粧料組成物。
- [請求項5] 下記成分 G を含み、
- 前記成分 B、前記成分 B 以外のエステル油、炭化水素油、及びシリコーン油からなる群より選ばれる25℃で液状の油性成分の含有量が、5.0質量%以上、25.0質量%以下である、請求項1又は2に記載の油中水型乳化化粧料組成物。
- 成分 G：粉体

[請求項6] 毛髪化粧料組成物である、請求項 1 又は 2 に記載の油中水型乳化化粧料組成物。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2023/039037

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61Q 19/00(2006.01)i; **A61Q 5/00**(2006.01)i; **A61K 8/06**(2006.01)i; **A61K 8/31**(2006.01)i; **A61K 8/33**(2006.01)i;
A61K 8/37(2006.01)i; **A61K 8/92**(2006.01)i
 FI: A61K8/06; A61K8/31; A61K8/92; A61K8/37; A61K8/33; A61Q5/00; A61Q19/00

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61K8/00-8/99; A61Q1/00-90/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996
 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2023
 Registered utility model specifications of Japan 1996-2023
 Published registered utility model applications of Japan 1994-2023

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2022-017525 A (NOVAMONT SOCIETA PER AZIONI) 25 January 2022 (2022-01-25) paragraphs [0004]-[0048]	1-6
A	JP 2021-070644 A (L'OREAL) 06 May 2021 (2021-05-06) entire text	1-6
A	JP 2004-043383 A (KAO CORP.) 12 February 2004 (2004-02-12) entire text, all drawings	1-6
A	JP 2022-065634 A (KAO CORP.) 27 April 2022 (2022-04-27) entire text	1-6
A	JP 2019-112336 A (KOBAYASHI PHARMACEUTICAL CO., LTD.) 11 July 2019 (2019-07-11) entire text	1-6

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.☒ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
 “E” earlier application or patent but published on or after the international filing date
 “L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
 “O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
 “P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
 “X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
 “Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
 “&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

07 December 2023

Date of mailing of the international search report

19 December 2023

Name and mailing address of the ISA/JP

Japan Patent Office (ISA/JP)
 3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915
 Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2023/039037

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP	2022-017525	A	25 January 2022	US 2022/0339085 A1 paragraphs [0007]-[0083]	
JP	2021-070644	A	06 May 2021	WO 2021/085197 A1 the whole document	
JP	2004-043383	A	12 February 2004	(Family: none)	
JP	2022-065634	A	27 April 2022	WO 2022/080312 A1 the whole document TW 202228632 A the whole document CN 116322606 A the whole document KR 10-2023-0088695 A the whole document	
JP	2019-112336	A	11 July 2019	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） A61Q 19/00(2006.01)i; A61Q 5/00(2006.01)i; A61K 8/06(2006.01)i; A61K 8/31(2006.01)i; A61K 8/33(2006.01)i; A61K 8/37(2006.01)i; A61K 8/92(2006.01)i FI: A61K8/06; A61K8/31; A61K8/92; A61K8/37; A61K8/33; A61Q5/00; A61Q19/00										
B. 調査を行った分野										
調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） A61K8/00-8/99; A61Q1/00-90/00										
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの <table border="0"> <tr> <td>日本国実用新案公報</td> <td>1922-1996年</td> </tr> <tr> <td>日本国公開実用新案公報</td> <td>1971-2023年</td> </tr> <tr> <td>日本国実用新案登録公報</td> <td>1996-2023年</td> </tr> <tr> <td>日本国登録実用新案公報</td> <td>1994-2023年</td> </tr> </table>			日本国実用新案公報	1922-1996年	日本国公開実用新案公報	1971-2023年	日本国実用新案登録公報	1996-2023年	日本国登録実用新案公報	1994-2023年
日本国実用新案公報	1922-1996年									
日本国公開実用新案公報	1971-2023年									
日本国実用新案登録公報	1996-2023年									
日本国登録実用新案公報	1994-2023年									
国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）										
C. 関連すると認められる文献										
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号								
X	JP 2022-017525 A（ノバモント・ソシエタ・ペル・アチオニ）25.01.2022（2022 - 01 - 25） 段落0004-0048	1-6								
A	JP 2021-070644 A（ロレアル）06.05.2021（2021 - 05 - 06） 全文	1-6								
A	JP 2004-043383 A（花王株式会社）12.02.2004（2004 - 02 - 12） 全文、全図	1-6								
A	JP 2022-065634 A（花王株式会社）27.04.2022（2022 - 04 - 27） 全文	1-6								
A	JP 2019-112336 A（小林製薬株式会社）11.07.2019（2019 - 07 - 11） 全文	1-6								
☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。 ☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。										
* 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献 “T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献										
国際調査を完了した日 07.12.2023		国際調査報告の発送日 19.12.2023								
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		権限のある職員（特許庁審査官） 太田 一平 4D 3841 電話番号 03-3581-1101 内線 3421								

国際調査報告
 パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2023/039037

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP	2022-017525	A	25.01.2022	US 2022/0339085 A1 段落0007-0083	
JP	2021-070644	A	06.05.2021	WO 2021/085197 A1 the whole document	
JP	2004-043383	A	12.02.2004	(ファミリーなし)	
JP	2022-065634	A	27.04.2022	WO 2022/080312 A1 the whole document TW 202228632 A the whole document CN 116322606 A the whole document KR 10-2023-0088695 A the whole document	
JP	2019-112336	A	11.07.2019	(ファミリーなし)	